

【国語（読む領域）・中3・「故郷」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。 (3) オ
(思、判、表等) 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。 C (1) イ
(学びに向かう力、等) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

文章を批判的に読む活動において、思考ツールを共同編集することで、表現されたものの見方や考え方についての考えを深める。

【つかむ】

「名作」について考えるために「故郷」を批判的に読むことの、学習の見通しをもつ。

『故郷』を読み取り、「名作」といわれる小説について考えよう。

【追究する】

思考ツールを使って、場面ごとに読み取り、作品に表現された時代の背景や登場人物を批判的視点でとらえる。

【まとめる】

「故郷」の叙述の良さをとらえ、他の作品と比較して、「名作」とはどんな作品か考える。

事例の概要

- 自分の考えを形成する場面で、思考ツールを使って共同編集する。
- お互いの考えを交流する場面で、大型モニターに投影して考えを発表しながら、意見の比較や分類を行う。

【事例におけるICT活用の場面①】

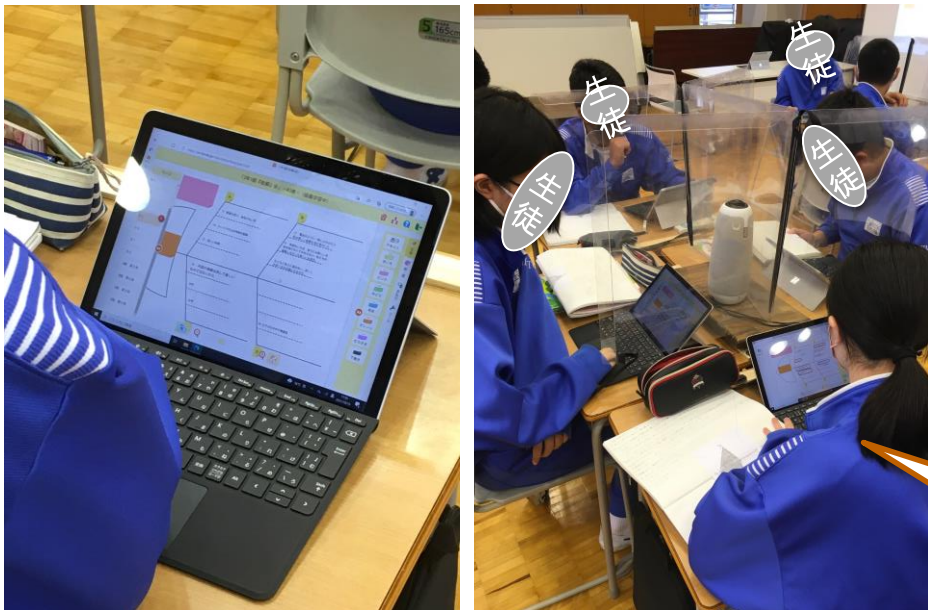
- 学習支援ソフトを通してフィッシュボーン図を共同編集し、「情景描写」「セリフ」「心情」「表現の工夫」についての叙述に着目して、表現の良さについての個人の考えを記入した後、グループで共有する。

【事例におけるICT活用の場面②】

- グループで作成したフィッシュボーン図を大型モニターに掲示し、叙述をもとにしてグループの考えを発表する。意見の共通点や相違点などを比較し、タブレットの付箋を使って分類していく。

【国語（読む領域）・中3・「故郷」①】

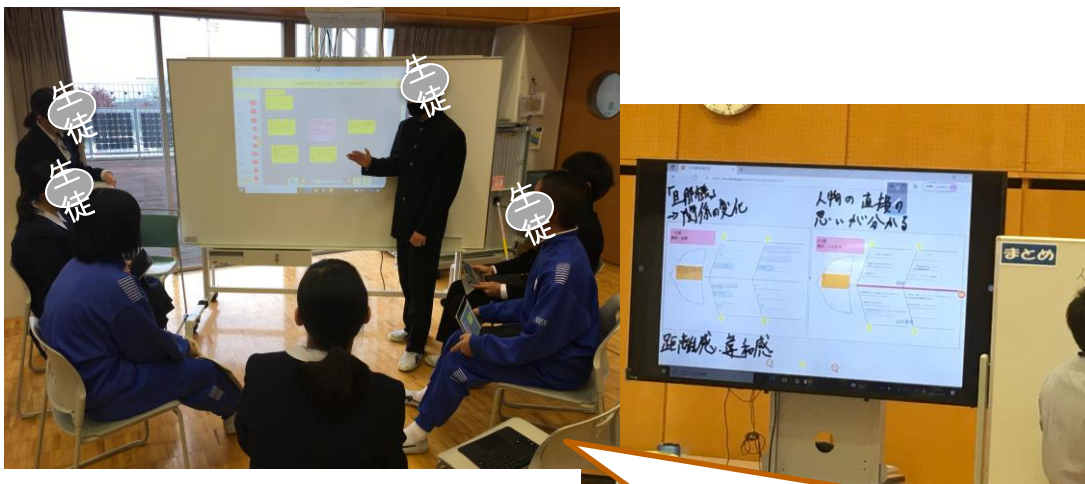
【事例におけるICT活用の場面①】



学習支援ソフトを活用し、思考ツール（フィッシュボーン図）を共同編集しながら、文章表現についての意見を交流しお互いの考えを深めていた。4つの視点（「情景描写」「セリフ」「心情」「表現の工夫」）について、生徒それぞれ分担して記入し、ジグソー的な学習活動で意見をまとめていた。グループで話し合う中で、友達の考えを取り入れたり、自分の考えを修正したりしながら意見をまとめることができた。

生徒がそれぞれの考えを形成した上で、交流を行った。お互いの考えを学習支援ソフトで可視化することで、スムーズに交流が行える。

【事例におけるICT活用の場面②】



大型モニターに示しながら話し合うことで、班で整理した考えの比較・検討・集約が容易になる。

思考ツールでまとめたグループの考えを、大型モニターに写し、根拠を示しながら発表していた。発表者とは別に、端末を操作する生徒が付箋の移動や分類、話合いで出された意見の記入などを行っていた。集約された内容は教員機でも確認することができるため、振り返りの場面等で、出された考えや集約した意見を示しながら、本時で学習した資質・能力について一般化することができた。

- 【活用したソフトや機能】
- ・学習支援ソフト
（思考ツールを共有）
 - ・大型モニター
（プロジェクター一体型）
 - ・アンケートフォーム